

山岳域における大気化学・物理に関する国際シンポジウム 2017 (ACPM2017) 終了報告

認定 N P O 法人 富士山測候所を活用する会

1. 開催までの経緯

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会（以下「NPO」と云う）は、富士山頂の測候所の夏期観測 10 周年を迎える 2017 年に記念事業として国際シンポジウムの開催をうたい、富士山測候所を東アジアのネットワーク拠点として更に発展させてゆきたいという希望を持っていた。

一方、2010 年に第 1 回山岳域における大気化学・物理に関する国際シンポジウムがスイスのインターラーケンで、2 回目は 2014 年米国のステイムボートスプリングスでそれぞれ開催された。次回はアジアでとの要請があり、台湾と協議のうえ日本で行うことになったものである。

2. 開催準備

山岳域における大気化学・物理学に関しては、これに対応する既存の学会等が存在しないため、国内における山岳域での研究を進めている研究者の多くが会員となっている NPO において、有志が「ACPM2017」実行委員会を組織した（畠山委員長、三浦・大河内各副委員長）。

開催時期を 2017 年 11 月に、開催場所を国内の山岳関係研究の重要拠点である富士山の近傍とすることに決定し、静岡県御殿場市の御殿場高原リゾート・時之栖を会場に選定した。

3. 開催結果

国際シンポジウムは過去に行われたヨーロッパ、米国の山岳大気のシンポジウムに勝るとも劣らない充実したものであり、参加した海外の研究者からも一様に 5 日間にわたる会議運営に対して高い評価を得ることができた。NPO 法人が中心になった実行委員会で 100 人規模の国際シンポジウムを成功させるという、新たな前例を作ることができたと云える。

(ACPM2017 概要)

会議名	2017 symposium on Atmospheric Chemistry and Physics at Mountain Sites (山岳域における大気化学・物理に関する国際シンポジウム 2017)	
期間	2017 年 11 月 6 日（月）～11 月 10 日（金）	
会場	御殿場高原リゾート・時之栖（ときのすみか）静岡県御殿場市神山 719 番地	
主催	山岳域における大気化学・物理に関する国際シンポジウム 2017 実行委員会	
共催	認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会、東京理科大学総合研究院 大気科学研究部門	
助成	公益財団法人鹿島学術振興財団、一般財団法人新技術振興渡辺記念会、静岡県東部地域コンベンションビューロー	
協賛	東京ダイレック(株)、日本カノマックス(株)、(株)ガステック、紀本電子工業(株)、グリーンブルー(株)、柴田科学(株)、東亜ディーケーケー(株)、(株)日本医科器械製作所、(株)プリード、(株)堀場製作所、ムラク計測器サービス(株)	
後援	静岡県、山梨県、大気環境学会、日本エアロゾル学会、日本環境化学会、日本気象学会、日本大気化学会、日本大気電気学会	
規模	参加者	101 人（日本、台湾、韓国、タイ、スイス、ドイツ、ポーランド、スペイン、クロアチア、アメリカ、カナダ、カメルーン）
	発表数	74 件（口頭発表 41 件、ポスター発表 33 件）
	企業展示	9 社

